



Junkyu Muto's Smoke Ring

--Devil's Tower, Wyoming, U.S.A.--

Photo, essay by T.T.Tanaka



Visited in June 17, 2019



マグマ in the sky

大草原の中に忽然と現れた巨大なタワー！

Devil's Tower(デビルズタワー)。

実はDevilは「新大陸」にやってきた人たちの誤訳で、先住民たちは聖なる生きものである「熊の爪痕」と呼んでいて、Devil(悪魔)とは無縁。聖地で色々な部族の人達が祈りに来る。命を感じるところ。

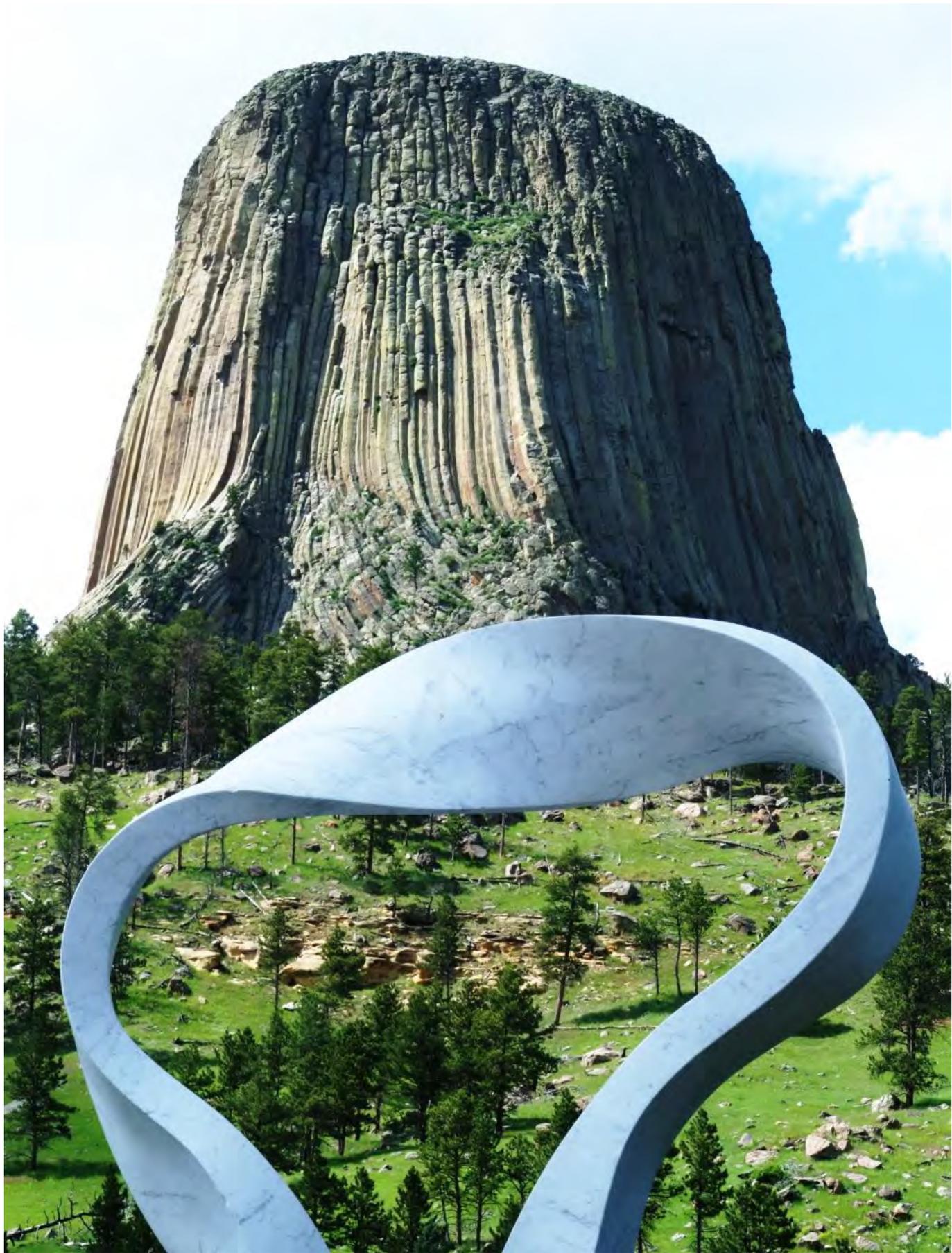
地面から300mもある岩はかつて地中から噴出したマグマの跡なのだ。ここにいると昔とも宇宙ともつながるような不思議な気分になってくる。

スピルバーグは「未知との遭遇」で宇宙人とのシーンをここで撮影したのだった。



コンドル

マグマはいくつもの柱になってずっとずっと伸びてそのまま空にささっている。
大きなコンドル(turkey vulture)が青い空に舞っている。





聖なる煙の輪

The Circle of Sacred Smoke----アメリカ先住民族の女性が昔、パイプをささげた。みんなのお祈りの時の聖なる煙。武藤順九さんはこれにちなんで作品を作った。彼は東京芸術大学を卒業し20代でイタリアにわたり、石の彫刻を作り続けてきた。

このSmoke ring、ねじられたメビウスの輪みたいで、とても石で作られたとは思えない。彼は、人が自然を征服するのではなく、私達は自然とつながった命なのだととらえている。作品は自然の妖精。素材の大理石は大昔からの生きものたちの歩みが凝縮されたものでもある。彼の作品はローマのバチカン、インドのブダガヤにも永久設置されている。人種、宗教、国を超えて愛されている。(※2019年6月より昭和の森にも9作品設置--彫刻公園)アメリカ最初の国立公園Devil's Towerの正面に2008年この作品は永久設置され様々な人々に愛されている。



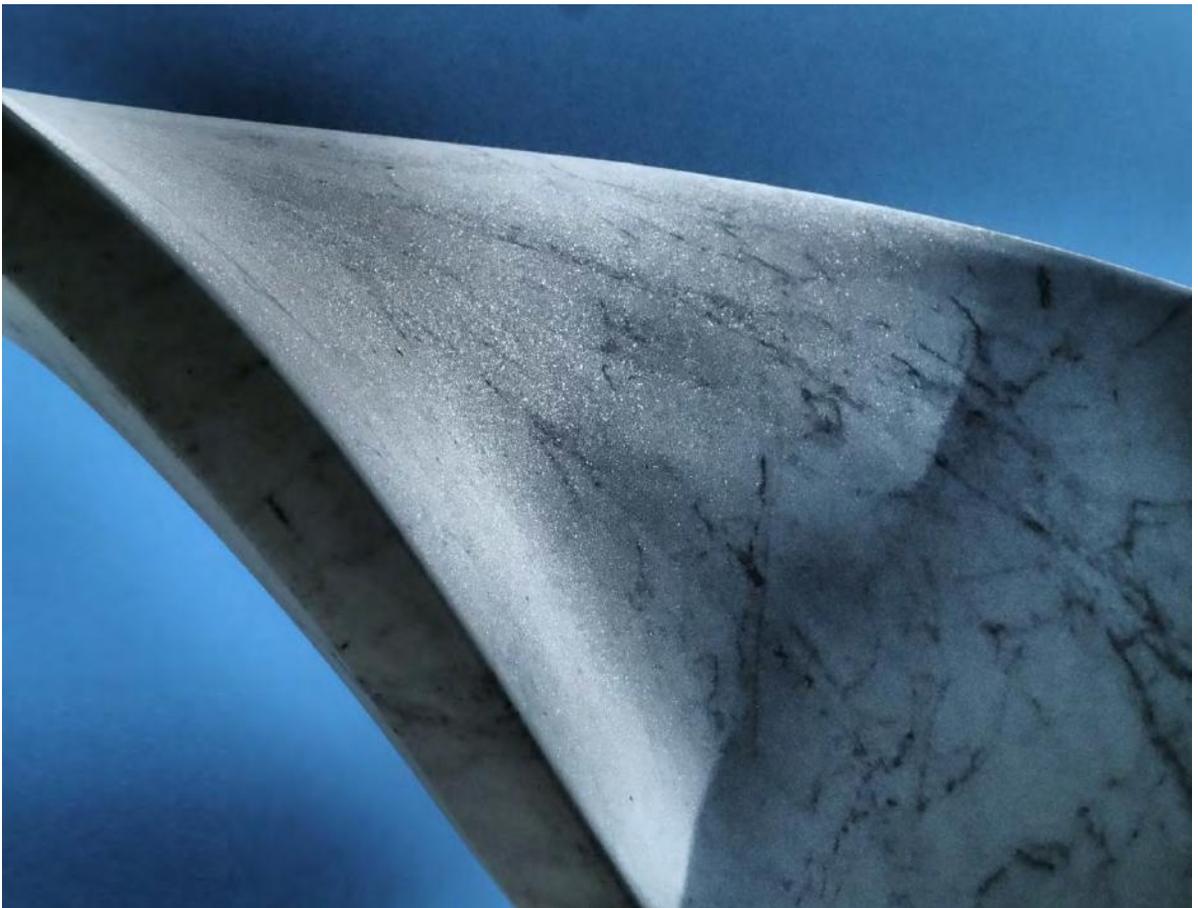


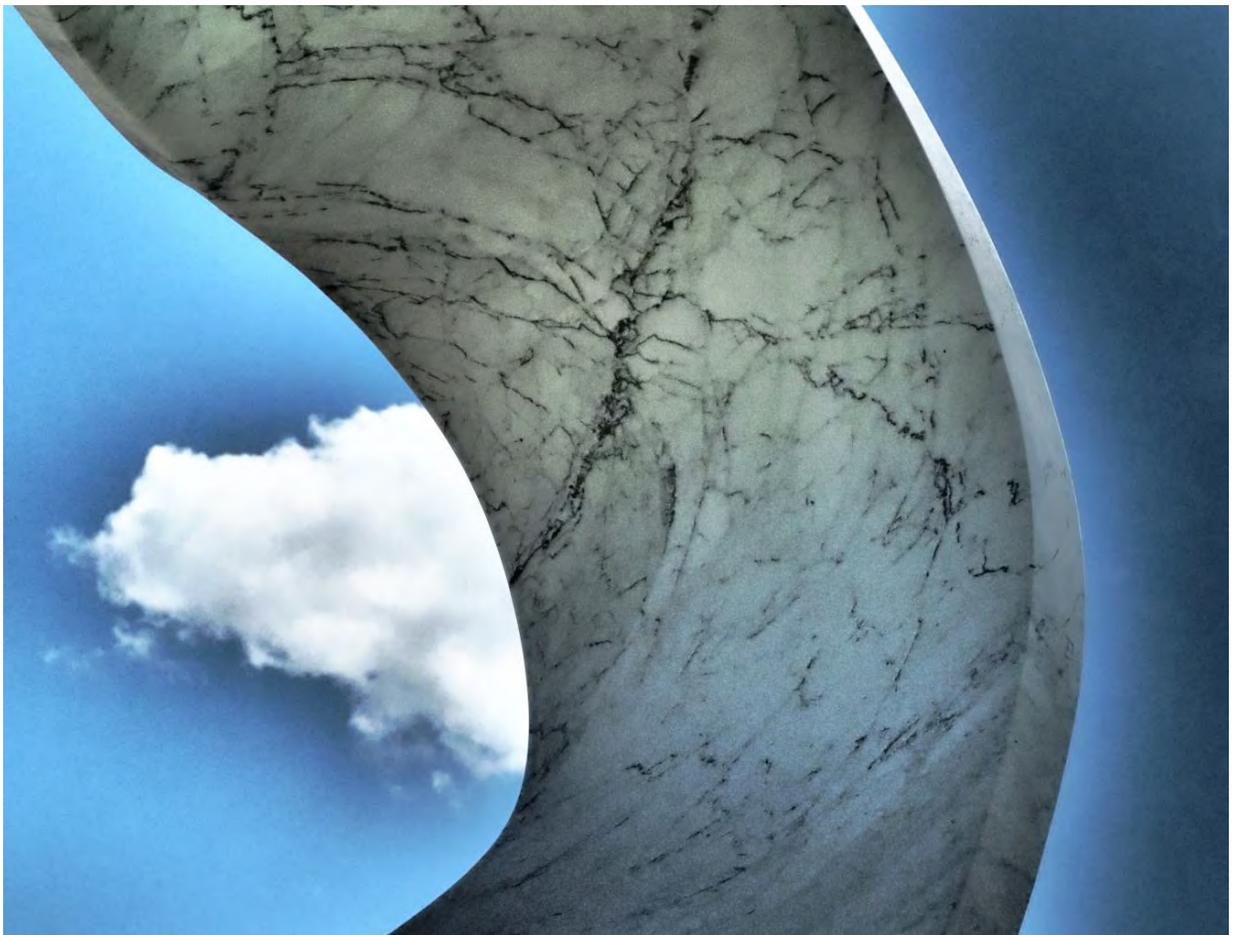




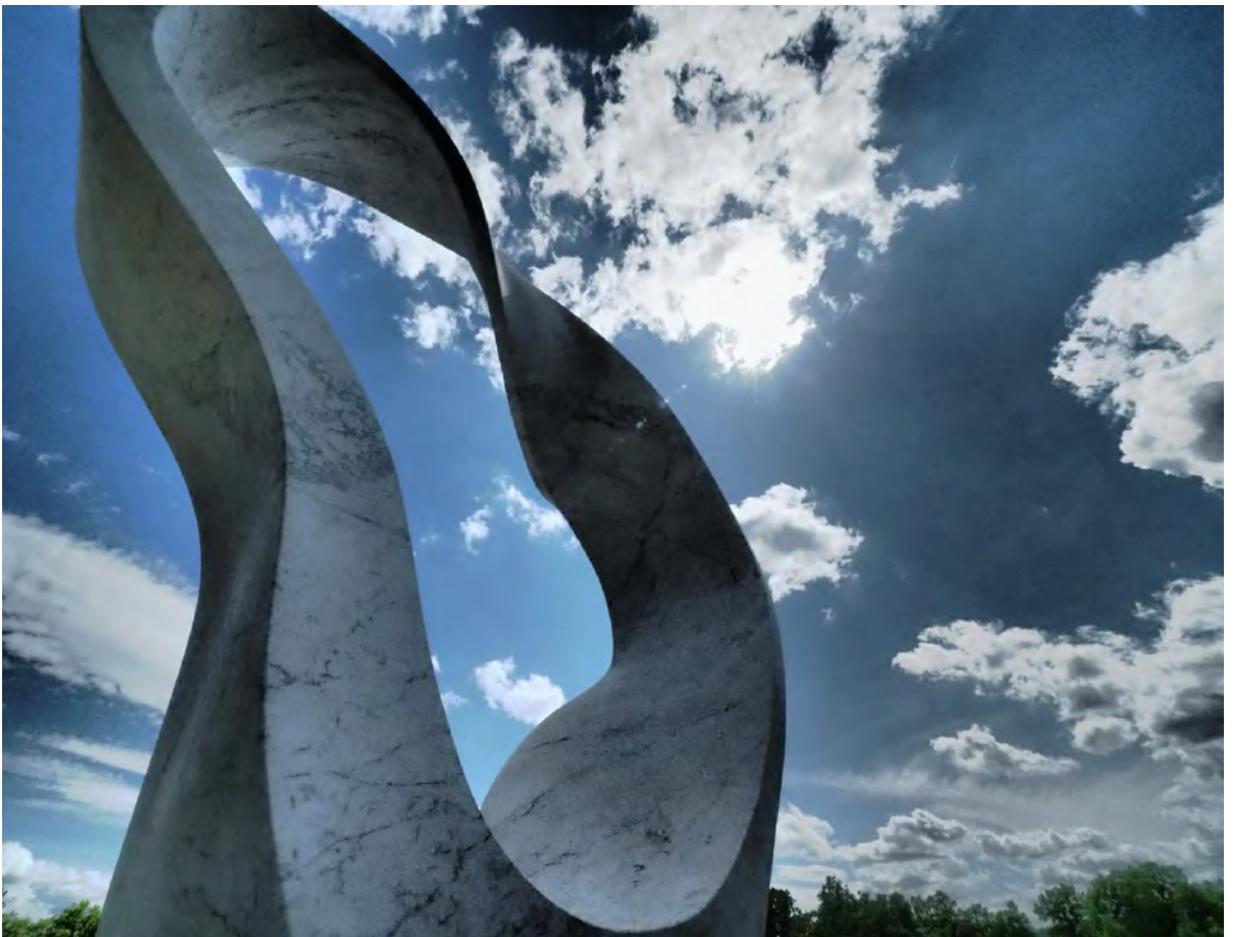
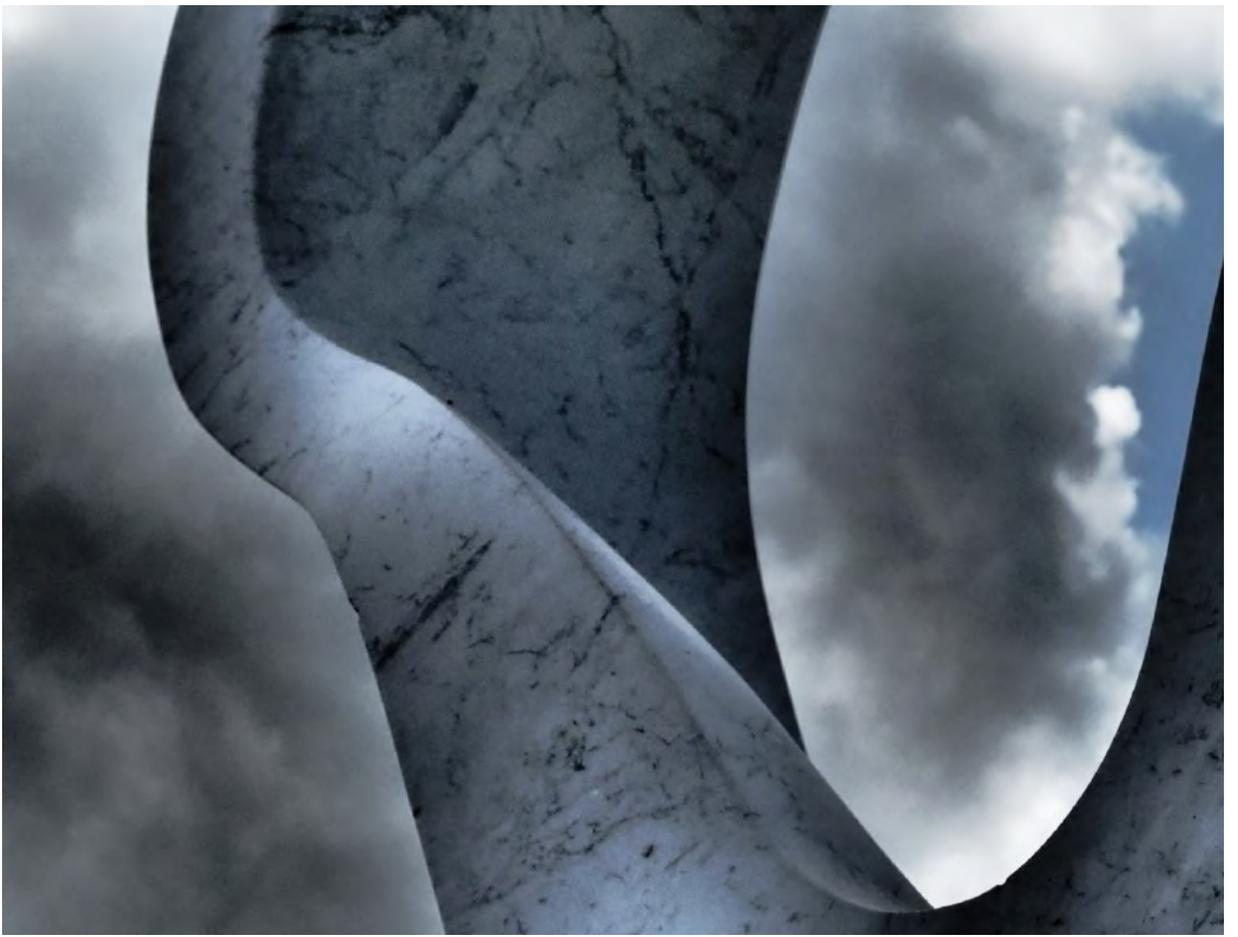
煙の合間に「塔」が見え隠れ。曲線の光と影が浮かんできれい。
Smoke ringが空の雲と会話しているみたい。
太陽が動いていくとどんどん表情も変わって面白い。





















子供たちをつれたファミリーも、シニアも、カップルも、お祈りのインディアンたちも次々にやってくる。みんなで彫刻とDevil's Towerと一緒に撮ったり、彫刻の感想をそれぞれ言ったり、彫刻に触れたり、そのまわりをかけっこしたり、まわりの砂を素手でもりあげて塔をつくってみたり、彫刻の中に顔を突っ込んだり。。 わあわあやっている。日本人の作品がこんなにみんなのものになっているのを見ると本当にうれしい。感動してしまった。アートってこうありがたい。アートがみんなのものになると幸せだ。



お祈りをしているインディアンのカップル。そこにやってきたおじさんは彫刻に興味津々。



「こんにちは～。キャンプ中なの？」

「そうそう。彼女ときてるの。君はどこから来たの？」

「日本から～。その作者と一緒に日本人なの～」

「え～！ 作者は日本人なのかい？ この作品、いいねえ。大好きだよ。」

「それは嬉しいですね。いいキャンプしてくださいね～」

「はいよ～」 彼は去っていった。と思ったら、3分後にあわてて僕のところに戻ってきた。

「僕の写真撮ってくれる？ ね、彼に、僕の写真と一緒に最高だったって伝えておくれ～」

「うん。じゃ作品とDevil's Towerを後ろに手を振ってにっこりしてくれる？」

「おう。こんな感じかい？」

嬉しい嬉しい時間だった。





アートと自然と人々と

雲の流れをぼーっと見ているとあっという間に影が長くなって来る。

女性たちのシルエットも美しい。

「塔」と「彫刻」を思わず振り返ってしまう。

そうそう。ここから立ち去りがたいんだ。

でも、そろそろ行かなきゃ。

もうすぐ陽が沈む。、



陽が落ちてしまう。

道路の脇に思わず止まってしまった。

空には藍色の雲。そして Devil's Tower のシルエットが赤い空に浮かび上がる。

大草原の日没は宇宙につながっていた。

あの Junkyu リングに乗っていきものたちも、人々も、宇宙人に会いに行くのかな。。

With Muto **Junkyu's**, diversity is here.

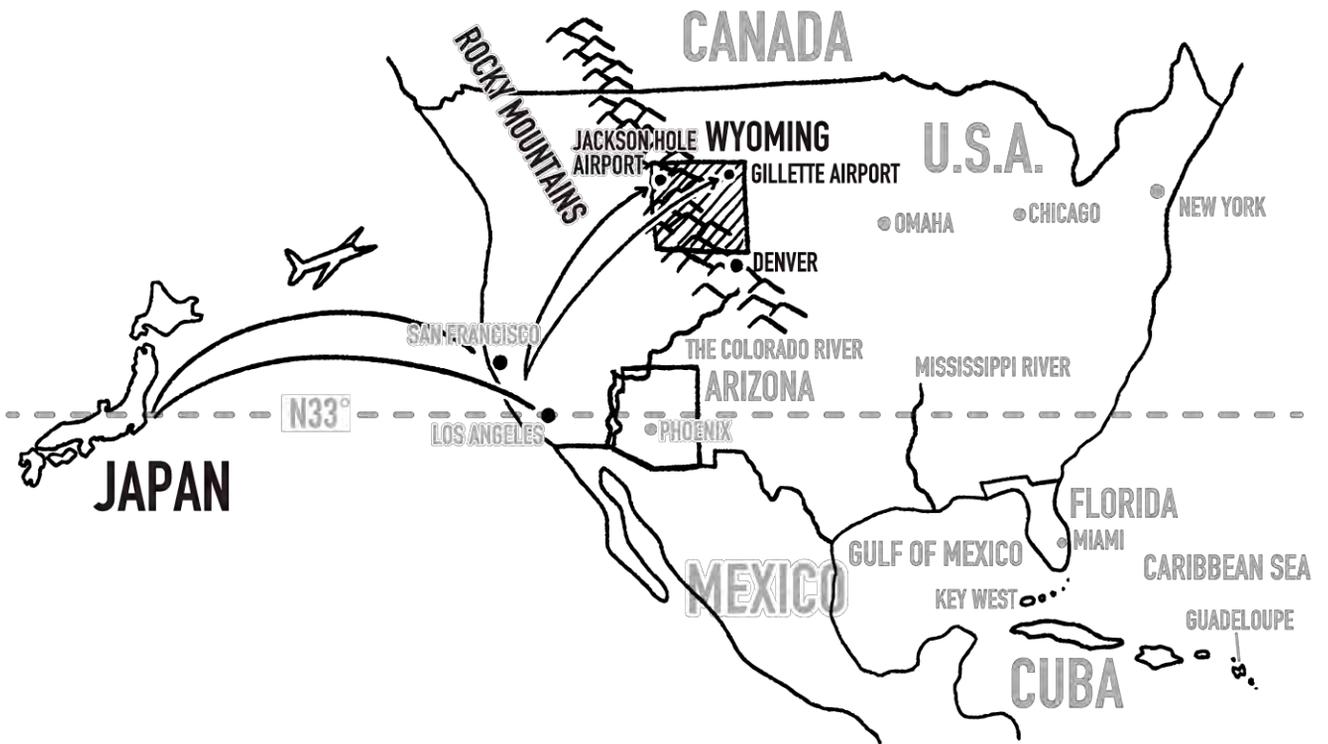
アメリカ先住民達、様々な市民、そして国内外の旅行客も次から次にやってきます。老若男女。子供たちも。順九さんの作品に触れ、思い思いの時間を過ごしてゆきます。先住民たちの聖地、Devil's Towerを背景に、素敵な時間が流れています。

パークレンジャーの職員たちは Smoke Ring の作品の存在は頭にしっかり入っていて、広大な空間の中の場所をすぐ教えてくれました。公園から数十分離れたところに住む農園の人達も、レストランの人達も、B&Bの人達も彫刻のことは知っていました。日本人の名前は言えなかったけど。。順九さんは僕の友人だというと、もう大喜びで、「素晴らしい、彼は設置のあと、来たの?」「彼にわたしたちのこと伝えてね～」と何人にも言われました。

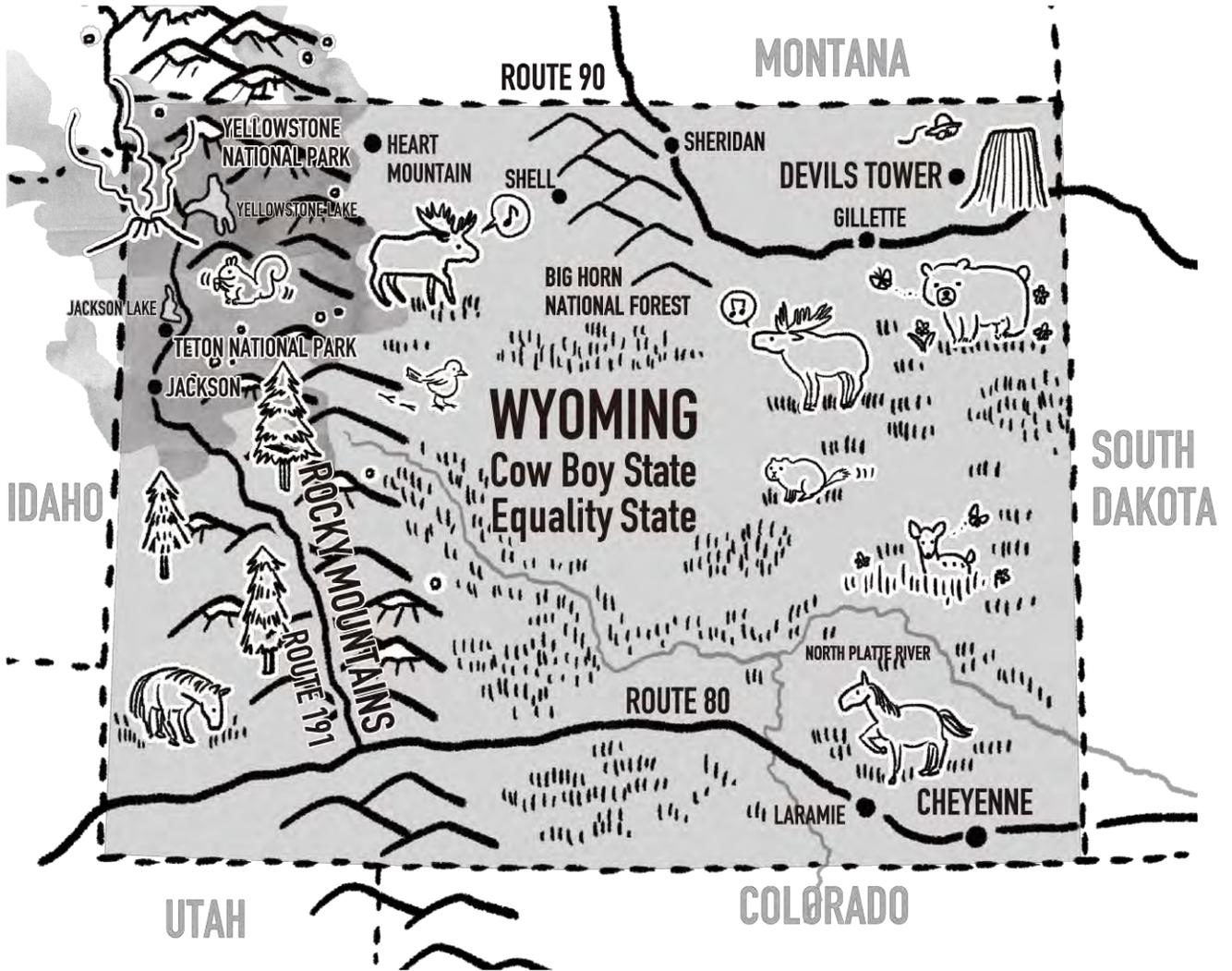
僕は子供たちが、順九さんの作品と、Devil's Tower をあちこちから眺めて、お母さんやお父さんとお話しして、自分たちで地面の砂をいじったり、作品にふれたり、走り回ったりしていたその光景が大変うれしかったです。作品の前のベンチに長い時間座って祈りをささげて帰っていったインディアンのカップルも印象に残りました。

作品をみながら大陸の草原の中、いろいろな命のこと、そして命と宇宙とのつながり、そして時の流れを感じることができました。

フォトグラファー、エッセイスト； T. T. Tanaka



ワイオミング州 詳細 MAP



T. T. Tanaka's profile

兵庫県芦屋市生まれ。現在は熱海に住む。幼少期、父の影響から写真を始めた。

アメリカ、フロリダ州在住経験をはじめ、プライベートやマーケティング業務を通じての国内外の訪問国は40ヶ国を超えた。

人々の日常生活においてこそ素晴らしいアートシーンが自然に創造されているとの考えの下、地球上の様々な所で撮影を続け、受賞作品も多数。

2016年より写真集 "ENCOUNTERS" シリーズ出版(日本カメラ社)。受賞作品のみで作ったI, アメリカの大草原ネブラスカのII, グリーンランドのIII, ウクライナのIV, カリブのV, ラトビアのVI, 台湾のVIIが既刊。写真ファン以外の広い層からも好評で、2019年12月には日本経済新聞にてBEAUTIFUL BOOKSに選ばれた。

日本での展示会の他、2018年にはパキスタンのスラムエリアでのJICAと協力して子供たちへ写真を使った授業、日本文化センターや大学における展示/ワークショップを行ったウクライナではT.T.Tanakaの活動をとりあげたTV番組制作・放映、2019年3月には写真とピアノのコラボによる昭島の魅力再発見プロジェクト「ENCOUNTERS in 昭島」を開催した。国内外の学校や病院他、様々な活動を精力的に展開中。

本名、田中廣 T. T. Tanakaは子供の時からやせて身長が高かったのでついたニックネーム、東京タワーたなか

ホームページ; <https://encountersweb.com/>

Email; tanakauf@xug.biglobe.ne.jp Instagram; [tokyotowertanaka](https://www.instagram.com/tokyotowertanaka)

anna magazine "Container" 月刊コラム "旅はENCOUNTERS" 執筆連載中



昭島・昭和の森 武藤順九彫刻園

<https://www.june9-showa-no-mori-akishima.jp/>